

第2章 江戸川らしさの発見

第1節 江戸川区の現況

1 江戸川区の概要

(1)位置

本区は東京都の最東端に位置し、面積が約 49.09 km² と 23 区で4番目の広さを有し、東西約8km、南北約13km の広がりがあります。

東に江戸川・旧江戸川、西に荒川・中川の大河川が流れ、南は東京湾を臨む、水辺に囲まれた都市となっています。

(2)人口・世帯数

令和4年4月の人口は約 69 万人、世帯数は約 35 万世帯です(表 2-1)。

また、平均年齢が 44.55 歳、年齢別人口構成比は年少人口が 12.4%と、東京都 23 区の平均に比べて若年層が多いのが特徴です(表 2-2)。合計特殊出生率が 1.27 人(令和2年人口動態統計)と 23 区平均の 1.12 人に比べて高くなっています。

(3)気候

本区の大気観測データを測定している3局(図 2-2)の年間平均気温は 16.7℃です(図 2-3)。東京地点(中央区)との各月の気温差は平均 0.04℃とほとんどなく、11月は0.5℃以上の差があり、夏は涼しく冬は暖かい環境が形成されています。また、区内3局の年間平均風速は 2.3m/s(図 2-4)で、風通しの良いまちが形成されています。

図 2-1 東京 23 区図



表 2-1 本区の人口

人口	688,602 人
世帯数	346,769 世帯

出典: 令和 4 年 4 月住民基本台帳

表 2-2 本区の人口と 23 区と比較

項目	江戸川区	23 区平均
人口密度(/km ²)	13,822 人	15,175 人
平均年齢	44.55 歳	45.01 歳
人口構成比	年少人口	12.4%
	生産年齢人口	66.2%
	老年人口	21.4%

出典: 令和 4 年 1 月住民基本台帳

図 2-2 区内観測点の位置



図 2-3 月別平均気温令和 3 年

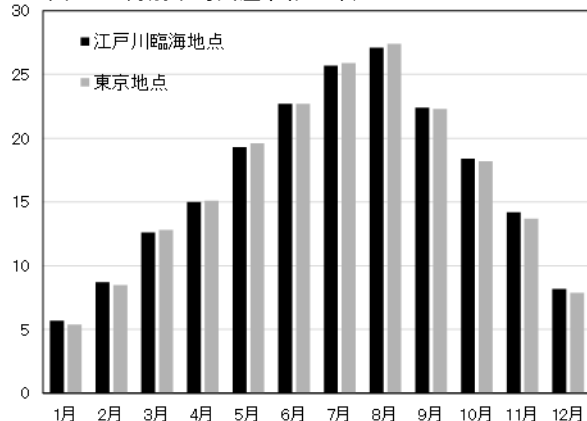
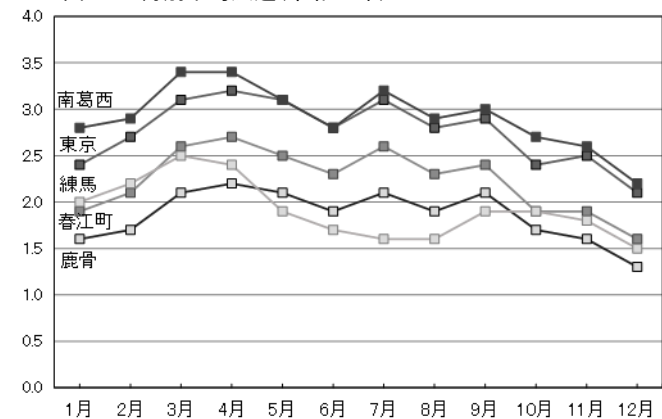


図 2-4 月別平均風速(令和 3 年)



出典: 気象庁気象統計情報・江戸川区大気観測データ

●蓮根・野菜・花卉・海苔・貝、和傘などの産業の多様化

明治時代は、蓮根、野菜や花卉、葛西浦では海苔や貝の養殖が盛んに行われるようになりました。小岩では「小岩は傘でたつ」とまで言われるほど、和傘の特産地として知られていました。

明治27年に現在のJR総武本線が開通し、昭和7年の江戸川区が誕生したときは、人口が約10万人になっていました。



和傘の乾燥風景(小岩)

●太平洋戦争や台風による大きな被害

昭和16年に日本は太平洋戦争に突入り、戦争が激しくなるにつれ、東京も空襲を受けるようになりました。子どもたちは空襲にそなえて、山形県鶴岡市などに集団疎開しました。昭和20年3月の東京大空襲では、小松川・平井一帯が焼失するなど大きな被害を受けました。また、昭和22年、24年と続けて大規模な台風被害を受け、これを契機にさらなる堤防強化や下水道整備が進みました。



キティ台風による被害(平井駅)

●高度経済成長とともに進む都市開発

昭和30年代からの日本経済の高度成長とともに、人口が急増し、急速な都市化により、昭和40年頃には、河川の水質汚濁や大気汚染などの都市環境の悪化が深刻な問題となりました。

このような問題を解決するため、昭和48年に、日本で初めて「親水」という考えに基づき整備した「古川親水公園」を完成させるほか、土地区画整理事業、海面埋立事業などによる道路の整備、公園や街路樹などの緑の充実を図り、安心して安全なまちづくりを進めてきました。



清流が復活した古川親水公園

●区民協働による水と緑が豊かな環境の拡充

これらの水と緑豊かな環境は、町会・自治会を中心とした活動や公園や水辺でのボランティア活動など、様々な区民の活動により、より魅力ある環境として維持・拡充されています。

その後、より豊かな水と緑の環境を整備し、時代の変化に合わせた多様なまちづくりを進め、現在では約69万人が暮らす都市に発展しました。



バラでいっぱいフラワーガーデン

●まちづくり活動の表彰実績

こうした歴史の中で、区民との協働の取組が、地域を元気にし笑顔があふれる、誇るべき江戸川らしさとなっています。これらは、国内外で高く評価され、「古川を愛する会」の緑綬褒章や、リブコム国際賞*での銀賞など多くの表彰を受けています。

「江戸川区の史跡と名所」「江戸川区郷土資料室解説シート」より抜粋・一部加工



愛する会による活動

※ リブコム国際賞「質の高い環境・景観の保全・創造による住み良いまちづくり国際賞」は、「国連環境計画」の支援を受け、国際公園レクリエーション管理行政連合(本部・イギリス)が主催して1996(平成8)年から開催している賞のこと。景観の向上、自然・文化・歴史遺産の管理、環境への配慮、コミュニティとの協働、健全なライフスタイル、将来計画の6項目で審査されます。

2 自然的条件の整理

(1) 地形・河川

本区は、江戸川の河口に広がる三角州の上であり、東に江戸川及び旧江戸川、西に旧中川、荒川及び中川、南に東京湾と、三方を河川と海に囲まれ、区面積の約7割が満潮面以下の低地となっています。

区内を流れる7つの河川は、東京湾からの海風を陸地に運ぶ風の道の役割を担っています。この豊かな水辺の環境により、他区に比べてヒートアイランド現象が緩和されています(図 2-6)。

(2) 緑地・樹木

区の緑地面積は、909.47ha で、緑被率(区全体面積に対する緑地面積の割合)は、18.5%となっています。樹林や、原野・草地が占める割合が高くなっています。増加率をみると、水面・河川・水路(樹林)や農用地(草地)は増加していますが、水面・河川・水路(草地)や農用地(緑被地以外)の面積は減少傾向にあります(図 2-7)。

樹木本数は、約 690 万本(令和4年4月)であり、約 50 年前の約 120 万本(昭和 47 年)に比べて5倍以上に増えています。また、大木も多く分布し、保護樹として登録されている樹木が 280 本(令和4年4月)あります。

小松川千本桜、小岩菖蒲園やフラワーガーデン、なぎさ公園などの花の名所も多く、花と緑豊かなまちなみが形成されています。

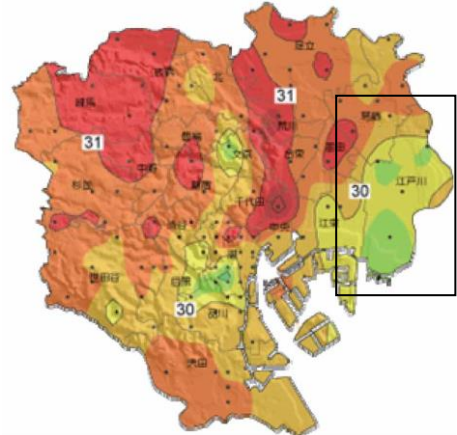
(3) 動植物

本区は、海水(塩分が多く含まれた水)、汽水(淡水と海水が混じり合った水)、淡水(塩分を含まない水)の3つの異なる水域があります。

この多様な水域と、葛西臨海公園の鳥類園や河川敷のヨシ原、河川の水を活かした親水公園や親水緑道、区民の手により創出されたビオトープなどの生き物に配慮した公園・緑地等の保全・整備により、多様な種類の生き物が見られます。葛西海浜公園は平成 30 年 10 月 18 日に都内では初となるラムサール条約湿地に登録されています。

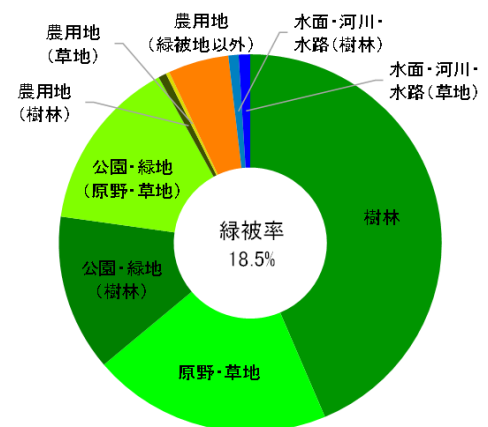
河川敷にはミゾコウジュやタコノアシなどの希少な在来植物、まちなかで身近にみられるスズメやシジュウカラをはじめ、チョウゲンボウ、ホオジロやセイタカシギなど、年間を通じて 50 種以上の野鳥や、トビハゼ、テナガエビやウナギなどの生き物もみられます。

図 2-6 23 区の日最高気温平均値の比較(平成 17 年度)



出典: エコタウンえどがわ推進計画(平成 27 年 3 月一部改訂)より

図 2-7 江戸川区の緑被率(平成 30 年度)



出典: 「平成 30 年みどり率調査」東京都(令和元年9月)



タコノアシ



シジュウカラ



セイタカシギ



トビハゼ

図2-8 水と緑の現況図



3 社会的条件の整理

(1) 歴史・文化

1) 寺社・寺社集積地

善養寺や浅間神社、平井聖天など、寺社が区内各地に分布しています。特に、小岩市川の渡しのあった北小岩三丁目、古川沿いの江戸川六丁目、小松川境川沿いの東小松川には、寺社が集積する趣ある景観が形成されています。



北野神社(北小岩三丁目)

2) 有形文化財・天然記念物等

かつて小岩市川の渡しにあった常燈明石造道標などの有形文化財、区内各所に多く見られる富士塚や庚申塔などの有形民俗文化財、一之江名主屋敷などの史跡、善養寺影向の松や松本弁天の臥竜の松といった天然記念物など、区の文化財に指定・登録している文化財は245件(令和4年5月)あります。このほか、旧小松川閘門や旧海岸堤防の一部など、歴史を感じる資源が多く残っています。



浅間神社の幟まつり(上篠崎二丁目)

図2-9 文化財数(令和4年5月)

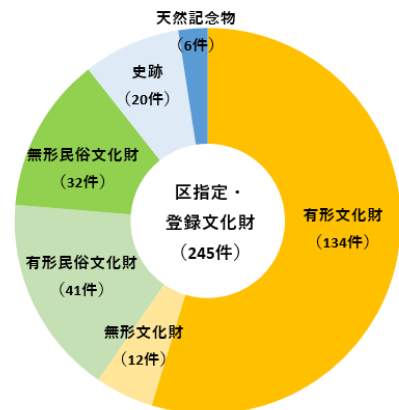
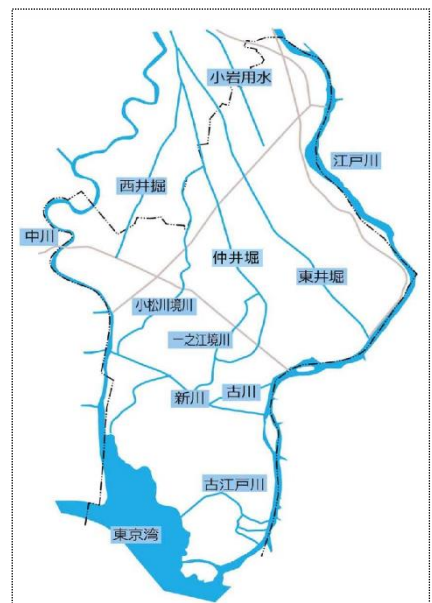


図2-10 明治期の主な水路位置図



出典:「まちの変遷とまちづくりの実績」

江戸川区(平成9年7月)

3) 伝統行事

浅間神社の幟まつりや雷の大般若、葛西大師まいりなどが今も地域で受け継がれています。

4) 遺跡

上小岩遺跡は、大量の土器を出土しており、集落が形成されていた可能性もあります。

5) 旧道

江戸時代における主要道路として、逆井の渡しから小岩に通ずる元佐倉道、五街道に匹敵する街道として重要視されていた佐倉街道(現千葉街道)、行徳塩の輸送路であった行徳道(現今井街道)、岩槻慈恩寺への参詣道としてにぎわった岩槻道(現篠崎街道)などがありました。これらの旧道は、現在も本区を支える重要な道となっています。

6) 水路跡

かつて区内には全長420kmにも及ぶ水路や中小河川がありました。都市化の進展とともに環境悪化が進みましたが、下水道整備に合わせて歩道や緑道として生まれ変わりました。

現在は、かつてのように水に親しめる施設として親水公園や親水緑道などが全長27kmにわたり整備され、土地の歴史を残す貴重な資源となっています。

図2-11 歴史・文化資源現況図



(2) 都市施設・土地利用等

1) 都市施設等

多様なまちづくり事業により、公園や道路、公共建物など、都市施設が充実しています。

- まちづくり事業: 土地区画整理事業、市街地再開発事業や地区計画など、様々なまちづくり事業を実施し、良好なまちなみが形成されています。
- 幹線道路: 本区を東西に結ぶ京葉道路や葛西橋通り、南北に結ぶ環七通りや船堀街道など、多数の幹線道路が整備されています。
- 鉄道: 戦前より開通していた JR 総武本線や平成元年に全線開通した都営地下鉄新宿線など、都心と千葉県を結ぶ5つの鉄道路線があります。
- レクリエーション施設: 公園・児童遊園等は、昭和45年には、98園、総面積約38haでしたが、令和4年には、496園、総面積約777ha(令和4年4月)となり、23区内一の面積を誇っています。
- 公共建物: 地域活動の拠点となるタワーホール船堀、総合文化センター、しのぎき文化プラザ、各地域の事務所やコミュニティ会館、小中学校などの公共建物が充実しています。
- 水辺の施設: 荒川ロックゲート、江戸川水閘門、今井水門などの水閘門や、大杉橋や明和橋など新中川のシンボル橋を含めて111橋にも及ぶ橋梁など、水辺の施設が多く点在しています。
- 身近な道: 身近な道づくりとして、安心して歩ける道、自転車走行環境、ポケットパークの整備などが充実しています。

2) 土地利用・建物

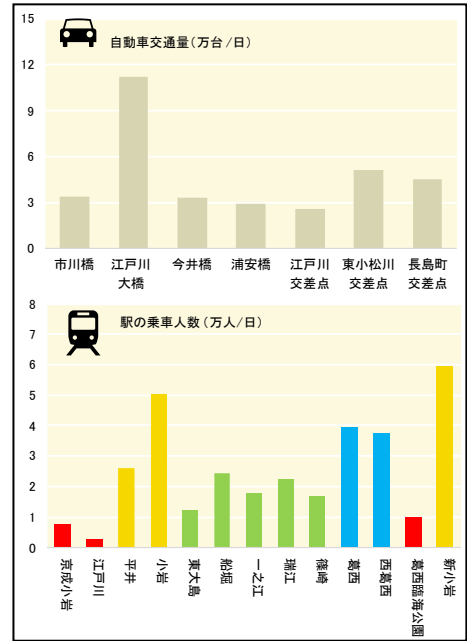
江戸川区の用途地域は、おおむね住居地域が7割であり、商業地域が1割、工業・準工業地域が2割となっています。

建物の9割以上が3階建て以下となっており、区全域に低層のまちなみが形成されています。

3階建てや建築面積の増加、戸建住宅敷地面積の減少などにより、ゆとりある空間が減少傾向にあります。

将来的に、土地利用の転換等による大規模開発が行われる地域については、的確な開発誘導を行っていくことになっています。

図2-12 道路・鉄道交通量



出典: 令和3年版統計江戸川

図2-13 公園・児童遊園面積の推移

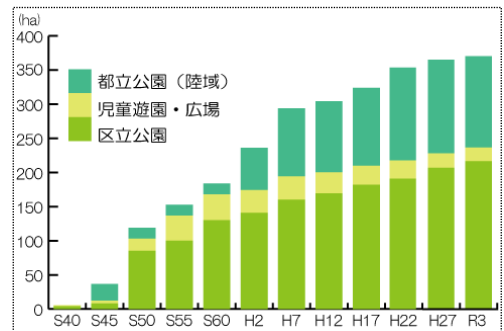
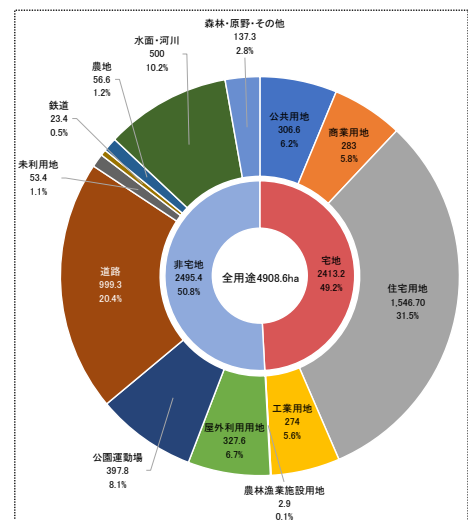


図2-14 土地利用の現況



出典: 江戸川区都市計画マスタープラン
(平成31年3月)

(3) 産業・イベント等

1) 商業

駅前を中心に多くの商店街が形成されています。最も多くの商店街が集まるJR小岩駅周辺は、昔ながらの風情が残る商店街に加え、南北の大規模な再開発が進み、新たな魅力あふれるエリアへと進化を遂げています。



小岩フラワーロード(南小岩六・七丁目)

2) 工業

かつて江東工業地帯の外縁として工場が多く分布していましたが、現在は減少傾向にあります。機械や金属などの工場が集積する松江地域やテクノタウン小松川などでは、今なお「ものづくり」が行われています。



工場が集積地(松江四丁目)

3) 農業(小松菜・花卉)

鹿骨地域を中心に、主に小松菜と花卉が生産されています。小松菜の収穫量は、都内でトップの収穫量で、日本一、二を競い、花卉は夏の風物詩として有名な入谷の朝顔市の約7割を生産しています。



小松菜栽培(鹿骨一丁目)

4) 金魚養殖

「金魚のふるさと江戸川区」と言われるほど、古くから金魚の養殖が行われています。現在では養殖業者は減少したものの、国内トップクラスの品質を誇っています。



金魚養殖(一之江六丁目)

5) 屋形船

江戸屋形船事業組合に17件が登録しており、旧江戸川沿いに船宿が分布しています。江戸川に伝わる伝統漁法「投網」を残すため船宿の有志による江戸投網保存会が発足し、5月に葛西臨海公園付近にて「お江戸投網まつり」を実施しています。



お江戸投網まつり(葛西臨海公園付近)

6) 伝統的な地域産業

江戸川区無形文化財・工芸技術に指定されているものは、つりしのぶや江戸扇子など11件あり、このほかにも多くの伝統的な地域産業が残っています。現在、えどがわ伝統工芸産学公プロジェクトなどにおいてブランド化の取組を行っています。



つりしのぶ(松島一丁目)

7) 催し・イベント

江戸川区民まつり、小岩菖蒲園まつり、江戸川花火大会や金魚まつりなど年間を通じて様々な催し・イベントがあります。特に桜やバラ、菖蒲など、区内には花の名所が多く、花に関するイベントが多く開催されています。



小岩菖蒲園まつり(北小岩四丁目)

(4) 区民活動

1) 町会・自治会活動

昭和30年代からの高度成長期に起きた様々な環境問題に対し、区と区民が一丸となってまちの美化活動及び緑化運動を進め、良好な環境をつくり上げてきました。現在でも当時の運動の中心だった町会、自治会などから組織される、環境をよくする地区協議会、親水公園を愛する会などの活動が行われています。

2) ボランティア活動

自治会などの組織とは別に、気の合った仲間同士や個人単位でも多くのボランティア活動が展開され、区内の公園、河川敷、歩道植栽帯などで清掃活動、樹木や草花の手入れ、プレーパークの運営、ビオトープ・花壇づくりなどが行われています。

区は、こうした活動の支援を目的に、アダプト登録制度※をつくり、活動相談をはじめ清掃器具の支給やごみ処理の支援などを行っています。

現在、アダプト制度登録者は合計約10,300人で今も増え続けています。

図2-15 町会・自治会数
(令和3年4月)

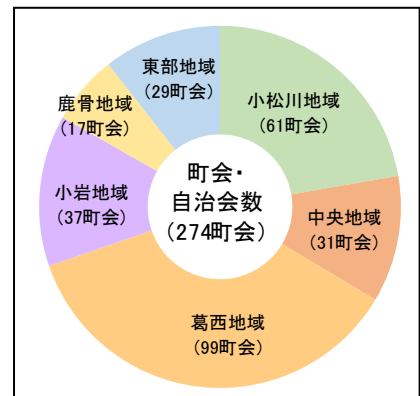
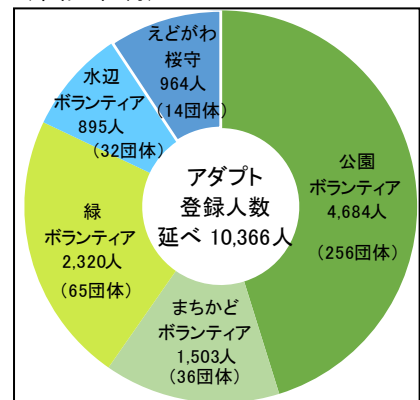


図2-16 アダプト制度登録人数
(令和4年4月)



※重複する団体・個人あり



小松川境川親水公園を愛する会による清掃活動



環境をよくする地区協議会(小岩地域)



プレーパークの運営



葛西東渚の鳥類園友の会による自然観察会

※ アダプト登録制度とは、道路や公園、河川などの公共空間を地域住民や企業などが主体となって、管理していく制度です。直訳すると「養子縁組する」という意味です。

4 区民意識

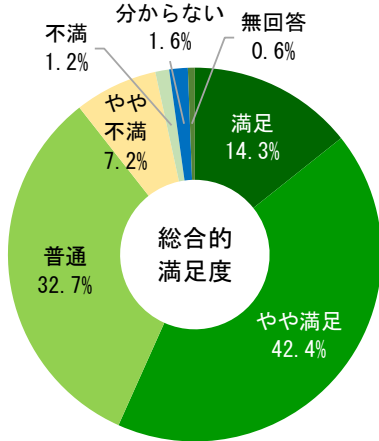
令和3年11月に実施した、第34回江戸川区民世論調査をもとに、景観に関する区民意識を以下にまとめます。

(1) 本区の現状について

本区の現況を総合的に見た場合、「満足」と「やや満足」を合わせると約6割、「普通」は約3割となっています(図2-17)。

項目別に見た場合、「公園・水辺の整備」や「緑化の推進」の満足度が高い傾向にあり、「街の景観」については、平成20年に実施した調査と比べ、「満足」「やや満足」が28%から34.5%へ上昇しています(図2-18)。

図2-17 総合的満足度



(2) 永住意向について

「今後も江戸川区に住み続けたいか」との問いに、「住み続けたい」と「できれば住み続けたい」を合わせた回答が、全体の7割以上を占めています(図2-19)。

図2-19 永住意向

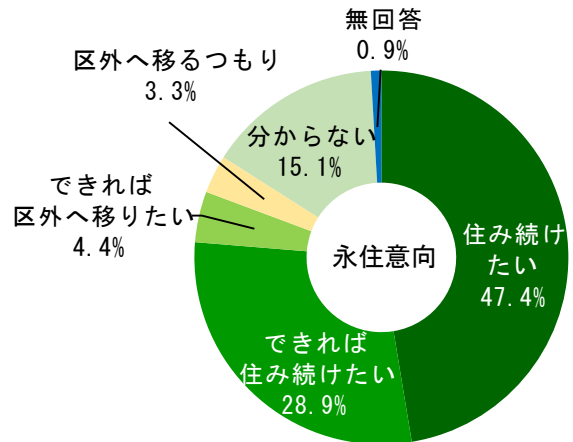
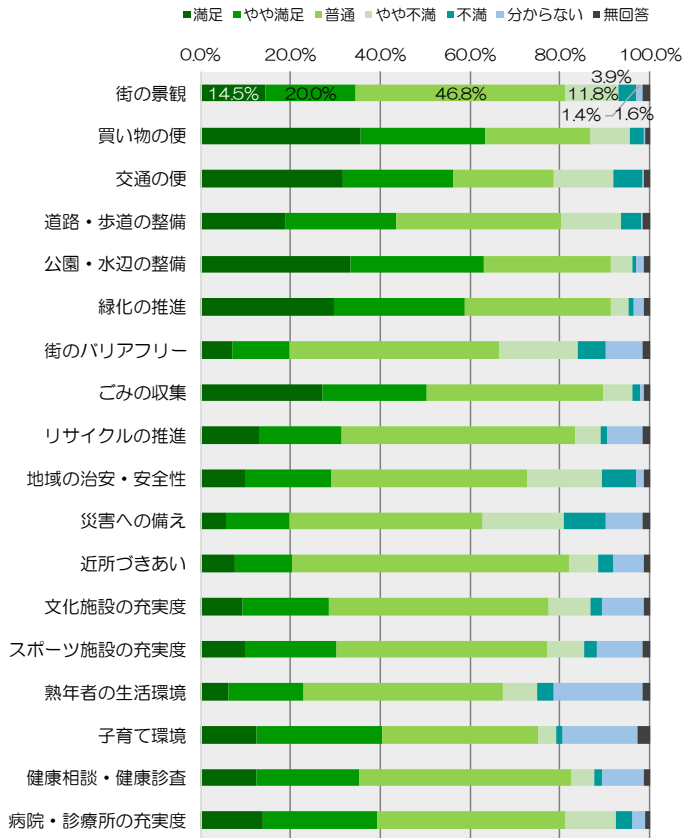


図2-18 区の現状に対する項目別満足度



第2節 江戸川らしさとは

1 区民が発見した「江戸川らしさ」

本区には、地域ごとに様々な景観要素が重なり合って形成される、多様な地域の特性「江戸川らしさ」があります。

江戸川区で暮らす人々が日頃感じる「江戸川らしさ」から、本区の景観について考えていくため、本計画を策定するにあたり景観まちづくりワークショップを開催し、多様な「江戸川らしさ」を発見しました。

これらの「江戸川らしさ」には、目に見えるものばかりではなく、音や匂い、雰囲気などの五感を使って感じるものも含まれます。

●景観まちづくりワークショップ

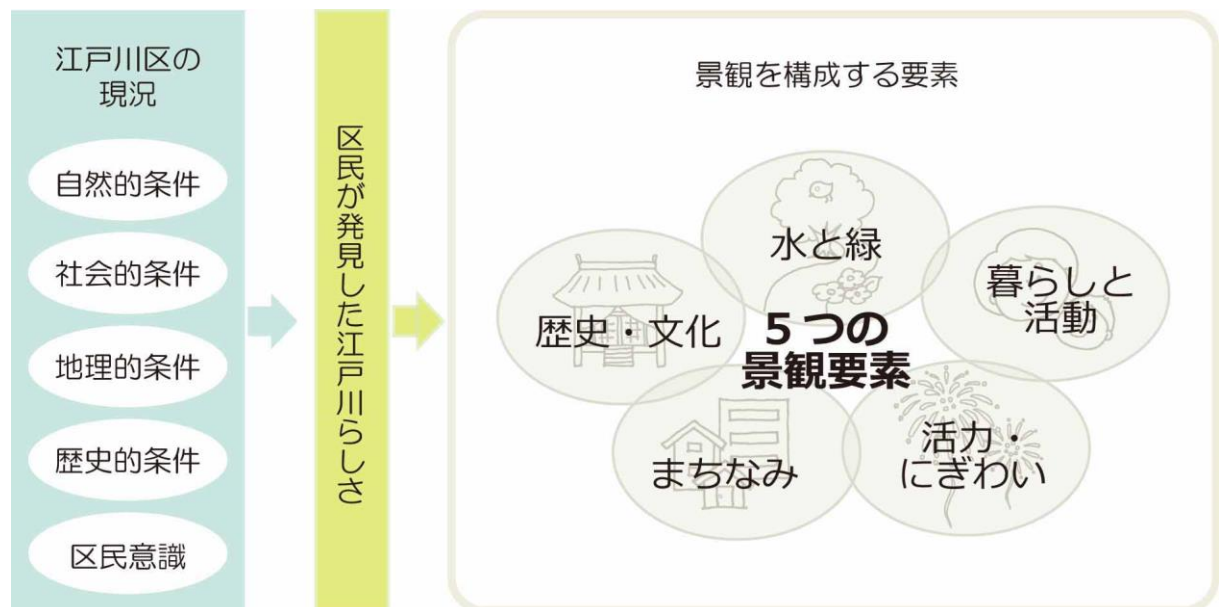
区民と区職員がともに本区の景観を考える場として、計画策定時に計16回のワークショップを開催し10年後の平成31年に1回、令和元年に3回の計4回、改めて江戸川らしさを見直すワークショップを開催しました。



2 本区の景観を構成する要素

「江戸川区の現況」と「区民が発見した江戸川らしさ」から、景観を構成する主要な要素を5つにまとめました。景観は、これらの要素が重なり合って形成されています。

図2-20 景観を構成する要素



3 要素ごとの江戸川らしさ

景観を構成する要素ごとに、景観特性と今後の課題、区民が発見した江戸川らしさをまとめます。

(1) 水と緑



三方が河川、海の水域に囲まれ、高低差のほとんどない地形的特性となっています。公園や河川敷などの広大なオープンスペース、全域に整備されている親水公園や親水緑道など、水と緑を基盤とした豊かでのびやかな景観を形成しています。

また、水と緑は風の道をつくり、ヒートアイランド現象が緩和されるなど、住み良い環境をつくりだしています。公園面積や街路樹本数は 23 区第一位を誇り、サクラ、ショウブやバラ、ツツジなど数多く分布する花の名所や、多様な生き物など、区民が身近に緑や自然とふれあう機会が数多くあるのが特徴です。

● 景観形成における課題

- ・減少しつつある大木や農地等の保全
- ・風の道を形成する水と緑豊かなまちの保全、創出
- ・より区民が水と緑と親しめる環境、機会づくり
- ・既存の水と緑を活かしたネットワークの形成

● 区民が発見した江戸川らしさ

- 広大な自然を感じる景観**
 葛西臨海公園
 ・荒川、江戸川、新中川の堤防
 ・大島小松川公園
 ・葛西臨海公園
 ・船堀タワーホール など
- 四季の変化を楽しめる景観**
 小松川千本桜
 ・小松川千本桜
 ・小岩菖蒲園
 ・フラワーガーデン
 ・ポラテア花壇 など
- 身近な生きものいる景観**
 荒川中土手
 ・一之江境川親水公園
 ・左近川親水緑道
 ・河川敷ビオトープ など
- 花見を楽しめる景観**
 なぎさ公園ツツジ山
 ・ようこうの松
 ・門かぶりの松
 ・保護樹 など
- 風を感じる景観**
 荒川の堤防
 ・葛西駅前の風車
 ・荒川、江戸川、新中川
 ・一之江境川親水公園
 などの親水公園、緑道
 ・船堀グリーンロード など
- 大木や珍しい木のある景観**
 鹿骨の門かぶり

(2) 歴史・文化



区内各所に遺跡、寺社、伝統行事や大木などの歴史的・文化的資源が点在しており、その多くが都や区の文化財として保全されています。

また、江戸と房総を結んでいたかつての旧道や、区内 420km にもおよんだ水路、地名、地域の人々によって支えられている伝統行事なども歴史を今に伝える資源となっています。かつて使われていた水^{こもん}閘門の遺跡など、水辺の都市ならではの歴史的・文化的資源が多いのも特徴です。

● 景観形成における課題

- ・まちの歴史を知る機会の拡充
- ・歴史的・文化的資源とその周辺が一体となった景観の保全・創出
- ・すでに失われてしまった歴史的・文化的資源の再生

● 区民が発見した江戸川らしさ

昔の地名が残っている景観
鹿見塚

- ・鹿骨
- ・小岩
- ・下鎌田 など

伝統行事のある景観
浅間神社轡まつり

- ・浅間神社
- ・鹿島神社 など

寺社のある景観
最勝寺（目黄不動）

- ・大雲寺
- ・善養寺
- ・目黄不動
- ・富士塚 など

史跡のある景観
旧小松川^{こもん}閘門（大島小松川公園内）

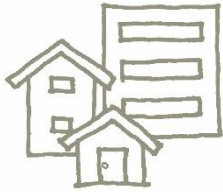
- ・浅間神社
- ・大雲寺
- ・小岩の渡し跡^{こもん}
- ・旧小松川閘門 など

昔の地形が分かる景観
古川親水公園

- ・新田仲町通り
- ・古川親水公園
- ・東井堀親水緑道
- ・旧海岸堤防 など

昔の地形が分かる景観
海岸水門・旧海岸堤防

(3) まちなみ



土地区画整理事業や再開発事業などにより、道路や公園などの都市基盤が充実し、現在は全域がおおむね良好な住宅地となっています。新しいまちなみの所々に大きな敷地面積をもつ屋敷なども見られ、新旧の建物が混在する景観が形成されています。

● 景観形成における課題

- ・地域特性やシンボルとなる資源を活かしたまちなみの形成とその維持
- ・建物の密度や形状など、ゆとりある市街地の保全
- ・地域のシンボルとなる資源の魅力の向上
- ・電線や鉄塔、屋外広告物などの気になる景観の改善
- ・色彩や建物高さなど、周囲と調和するまちなみの形成

● 区民が発見した江戸川らしさ

路地のある景観
南小岩・東松本の路地

- ・小岩駅周辺
- ・平井駅周辺
- ・京成江戸川駅周辺

商店街と住宅地が入り交じる景観
南小岩のまちなみ

- ・小岩駅周辺
- ・平井駅周辺
- ・今井街道

- ・鹿骨
- ・東小岩 など

大きな屋敷のある景観
古川親水公園沿線

新しいまちなみの景観
一之江駅周辺のまちなみ

- ・小松川再開発
- ・篠崎駅周辺土地区画整理
- ・清新町・臨海町土地区画整理 など

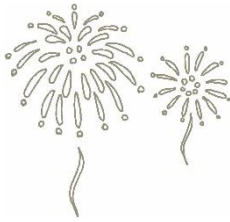
富士山が見える景観
タワーホール船堀

- ・船堀橋・平井大橋
- ・なぎさキュータツ
- ・タワーホール船堀

橋梁や水閘門のある景観
明和橋

- ・辰巳新橋
- ・明和橋
- ・江戸川水門 など

(4) 活力・にぎわい



本区では、子どもたちが公園やまちかどで元気に遊ぶ声、健康の道などでウォーキングを楽しむ夫婦など、区民の生き生きとした姿が多くみられます。また、四季を通じて様々なイベントや催しが行われており、多くの人でにぎわっています。

駅前をはじめとした商業、鹿骨を中心に点在する農業、松江に広がる工業をはじめ、金魚養殖、屋形船や伝統工芸など水辺に囲まれた江戸川区ならではの産業のある景観が、日々の暮らしの中で活力ある景観となっています。

● 景観形成における課題

- ・人の暮らしの姿を活かした景観づくり
- ・にぎわいを創出する機会の拡充
- ・地域産業を活かしたまちの個性の育成

● 区民が発見した江戸川らしさ



- ・親水施設
- ・大規模公園
- ・公園・児童遊園
- ・小中学校



- ・鹿骨一帯
- ・篠崎一帯
- ・北葛西 など



- ・江戸川花火大会
- ・善養寺菊花展 など

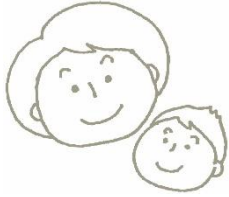


- ・健康の道
- ・大規模公園
- ・駅前商店街



- ・駅前商店街

(5)暮らしと活動



これまで区民と区は強いパートナーシップにより、多様なまちづくりを進めてきました。現在、町会・自治会を中心とする組織の活動、アダプト活動、環境保全活動など、区民活動が活発で内容も多岐にわたっています。

●景観形成における課題

- ・これまで培ってきた区民と区のパートナーシップのさらなる拡充
- ・身近な景観の改善
- ・景観まちづくり活動への意識の向上

●区民が発見した江戸川らしさ



- ・町会自治会の地域祭
- ・ポケットパーク



- ・公園ボランティア
- ・まちかどボランティア
- ・緑のボランティア



- ・^{のり}海苔の生産体験
- ・第七葛西小学校の水田など

4 区民の江戸川らしさを守り育てるアイデア

景観計画の策定から10年が経過し、まちづくりが進む中で区の景観も変わってきました。そこで、区民が主体となってこの10年を振り返り、江戸川らしさを見直すワークショップを開催したため、景観を構成する要素ごとに、区民の江戸川らしさを守り育てるアイデアをまとめます。

(1) 水と緑

- ・江戸川水閘門こうもんにおけるアユや河川に生息する動植物の保護
- ・親水緑道等の雑草の手入れや花を植える

(2) 歴史・文化

- ・地域の魅力を知る寺社巡りツアーの開催
- ・「えどがわ百景探訪マップ」を活用したまち歩きの開催
- ・旧江戸川舟運の活用
- ・歴史マップの作成

(3) まちなみ

- ・無電柱化の推進
- ・地域資源を活用したイベントの開催

(4) 活力・にぎわい

- ・生産地でのあさがお市の開催
- ・地域の魅力を知る散策コースの設定

(5) 暮らしと活動

- ・花卉かきや野菜のビニールハウス見学会の開催
- ・花卉かきの栽培体験
- ・河川や緑道における動植物調査
- ・地域の交流イベントの開催
- ・河川敷等の清掃活動



ワークショップの様子